

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月16日(金) 6校時
児童 第6学年 男8名 女12名 計20名
指導者 教諭 田村優子

付きたい読解力 A 事実と筆者の考えに対して自分の考えをもちながら読む力。
B 文章の要旨をとらえる力。
C 自分の考えを広げたり、深めたりするために必要な資料を読み取る力。

1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう (光村6年下)
教材名 平和のとりでを築く

2 単元について

(1) 単元の位置づけ

【低学年の説明文】 順序を追って、正確に読む。



【中学年の説明文】 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。



【高学年の説明文】 「サクラソウとトラマルハナバチ」
「ニュース番組作りの現場から」
・筆者の主張は、文章の中に内包されていること。
・要旨をとらえ、感想をもつ。
「生き物はつながりの中に」
・問題の解明を発展させる形で、筆者の考えが最終段落や題名に強く明確に示されている。
・自分の考えをもち、発信する。

(2) 教材について

第5学年及び第6学年の説明的文章の読解力として、最も身に付けさせたいことは、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にして読んだりすること。」である。

本教材では、負の遺産である原爆ドームがなぜ世界遺産となったかを考え、未来を担う一員である子どもたちに、これからの社会のあり方は自分たち自身の問題であるという視点から「平和」について考えさせることで、教材の内容・価値を読むことができる。また、文章構成、叙述の特色について読み取ったことが、「自分の考えを発信しよう」での活動に生きてくる。

速読や文章全体を概観しながら拾い読みをする摘読などの活動を取り入れていくことで、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていくことができるようになり、身に付けさせたい力をつけるのに適した教材であると考えられる。

(3) 児童について

児童は説明な文章の「生き物はつながりの中に」で、筆者の主張を読み取るために、文章構成に着目したり、問題提起の文に対する答えを探しながら、段落ごとに要点をまとめたり、要約したりした。また、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる学習活動も行った。その結果、問題提起の文に着目したり、形式段落に何が書かれてあるかを短い文でまとめたり、一言で話したりできるようになってきた。しかし、読み取りや書くスピード、内容に個人差が大きく、目的や意図に応じた文を書くのに支援を必要としている児童も多い。また、自分の考えに根拠をあげて発言する力については、大事な言葉を入れて発言をするように取り組んでいる。大事な言葉を探そうとする姿勢はついてきているが、的確な根拠をあげることにはまだ自信のない児童もあり、これからさらに伸ばしていきたいところである。

NRTの結果を見ると「読むこと」の領域は全国平均並で他に比べて大きく落ちていることはないが、筆者の述べていることをふまえて文章を書くことを苦手としている児童が多い。また、段落ごとに中心となる内容をおさえて読むこともまだ不十分で課題としているところである。

(4) 指導について

本教材では、筆者の訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつことをねらいとし学習をすすめる。筆者の考えを読み取るために、重要語句や指示語・文末表現に着目しながら、筆者の考えと事実とを区別し叙述に即して正確に読み取り、文章構成をつかむことができるようにさせたい。

また「原爆ドーム」の表現の違いや保存を願う人々の広がりに着目しながら、「原爆ドーム」が世界遺産に指定されるまでの過程を理解し、「原爆ドーム」について筆者がどのように考えているかを読み取らせたい。そして、筆者の訴えに対して、自分はどう考えるかをまとめ、互いに交流することで、自分の考えを発信する活動へとつなげていきたい。

本研究に関しては、単元全体や本時で身につけたい力を明らかにしながら授業を展開していく。また、事例・筆者の意見・伝えたいことをワークシートに書くなどして、要旨をとらえるための書く活動や自分の考えを述べる作文を書く活動を通して確かに読み取る力をつけていきたい。

3. 単元の目標

- (1) 筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。 (関心・意欲・態度)
- (2) 筆者の考えをまとめ、自分はどうのように考えるかを明確にしながらかみでいる。(読むこと エ)
- (3) 自分の考えを明確にするために、必要な材料を選び、整理して全体の組み立てを考えて書いている。(書くこと イウ)
- (4) 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見に反論を述べたりする。(書くこと エ)

4 単元の指導計画 (14時間)

- | | | |
|-----------|-------|---|
| 〈一次 つかむ〉 | 1 | ・単元名、題名、リード文から学習の見通しをもつ。
・戦争や平和に関して知っていることや思っていることを出し合う。 |
| 〈二次 見通す〉 | 2 | ・題名と①から読みの課題をつかむ。全文を読む。
・文章構成をつかみ、学習の見通しを立てる。 |
| 〈三次 深める〉 | 3 | ・形式段落②～⑧を読み、原爆ドームがたどった歴史を読み取る。 |
| | 4 | ・形式段落⑨～⑫を読み、世界遺産への道のりを読み取る。 |
| | 5 | ・形式段落⑬を読み、筆者の伝えたいことを読み取る。(本時) |
| 〈四次 まとめる〉 | 6 | ・文章全体を要約する。 |
| 〈五次 広げる〉 | 7 | ・自分の考えを発信するための見通しをもつ。 |
| | 8～10 | ・自分の考えを持つのに必要な資料を集め、文章の構成を考える。 |
| | 11・12 | ・自分の考えを書き、推敲する。 |
| | 13 | ・「平和」に対する自分の考えを発信する。 |
| | 14 | ・この単元での学習を振り返る。 |

5 本時の指導

- (1) 目 標 文章構成や重要語句に着目し、筆者が読者に伝えたいことを読み取る。

本時でつけたい読解力

- A 筆者の伝えたいことを受け止め、まとめる力
- B ユネスコ憲章の意味をとらえ、要点を書きまとめる力

(2) 展 開

	学習活動 (○主発問 ・学習内容)	指導上の留意点・(評価方法)
つかむ 5分	1 学習課題を確認し、見通しをもつ。 筆者の伝えたいことを読み取る。	・年表にまとめたものを振り返りながら、前時までの学習を想起する。 ・文章全体の構成から筆者が伝えたいことが⑫⑬段落に書かれてあることを確認する。 (観察)
見通す 5分	2 学習場面を音読する。(形式段落⑬) 3 問題解決の見通しをもつ。 ○⑬段落にある筆者の考えの部分を探し、 サイドラインをひく。 ・語尾に着目しながら、考えの部分を探すようにする。	○筆者の考えは何かを考えながら音読させる。 ○⑬段落にある筆者の考えを探させる。 ・「～なのだ。」と言いつ切っている語尾に着目させる。 (観察・発言)

<p>ふかめる 25分</p>	<p>4 ⑬段落の内容を検討し、筆者が伝えたいことをとらえる。(学び合い)</p> <p>○ ⑬段落にある筆者の考えの部分をとらえる。 ・「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」とはどのような意味か考える。(一人学び)</p> <p>・「戦争は、人の心の中で生まれるもの」「心の中に平和のとりでを築かなければならない」に書き込みをしながら考えさせる。</p>	<p>○筆者の考えを確認する。 ・ 初め一人一人考えた後、全体で交流する。 ・ ユネスコ憲章は、世界平和の基本的な約束であることをおさえる。 (観察・ワークシート)</p> <p>○初め一人一人書き込みをしたあと、グループで交流しあい、考えをまとめさせる。 ・「戦争はどんな心の中で生まれるのか」「とりでとはどんなものか」を考えるようにさせる。</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>5 筆者の伝えたいことをまとめる。(学び合い)</p> <p>○ 筆者の伝えたいことは何だろう。 ・ グループで話し合ったことをもとに全体で話し合う。 ○ 話し合ったことをもとに自分のまとめを書く。</p> <p>6 まとめたことを交流する。(学び合い)</p> <p>○ 自分のまとめを発表しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わたしたちは、戦争を起こさない、平和を守るという強い気持ちを持たなければならない。</p> </div> <p>7 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○書き出しを確認してからまとめさせる。 ・ 「わたしたちは・・・。」を書き出しに、続きの文を考えまとめる。 ・ 平和のとりでを築くために、読者にどんな考えをもってほしいと作者は願っているのかを考えさせる。 (ワークシート、観察)</p> <p>○各自考えたことを交流しあう。 (観察・ワークシート)</p>

(3) 具体的評価規準

A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する児童への支援
<p>筆者の主張をとらえ、文中の言葉や自分の言葉を入れながらまとめを書いている。</p>	<p>筆者の主張をとらえ、文中の言葉を用いながらまとめを書いている。</p>	<p>友達の考えを聞きながら、筆者が伝えたいことをとらえさせ、板書をもとにしながら書きまとめられるようにする。</p>

(4) 板書

まとめ

わたしたちは、戦争を起こさない、平和を守るといふ強い気持ちをもたなければならない。

平和を守る気持ちをもつこと
戦争を起こさないこと
核兵器を使わないこと

←

平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。

原爆ドームは、それを見る人の心に

原爆ドーム

ならない。」と記されている。

⑬ 平和のとりでを築く 大牟田 稔

⑬ 筆者の伝えたいことを読み取ろう。

世界平和のための約束
国連のユネスコ憲章には、

自分勝手、戦いで決めようという考え、相手のことを考えない

「戦争は、人の心の中で生まれるものであるから、戦争から守る、戦争を起こさない、平和を守る気持ち

人の心の中に平和のとりでを築かなければ

をもつ

一 平和のとりでを築く 教材分析表

4		3			2							1	意味 段落
⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	形式 段落
平和のとりで	記念碑	不安	世界遺産	世界遺産	保存	一少女の日記	議論	傷だらけの建物の特徴	原子爆弾	この建物	物産陳列館	原爆ドーム	キーワード
原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。	原爆ドームは、核兵器は不必要だと世界の人々に警告する記念碑なのである。	決定の知らせが届いたとき、わたしは、世界の人々の、平和を求める気持ちの強さを改めて感じた。	世界遺産は、文化遺産と自然遺産を守っていくための制度である。	広島では原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった。	今の形を保つため、補強工事は何度か繰り返された。	急性白血病でなくなった一少女の日記に後おしされて「原爆ドーム永久保存」に立ち上がった。	原爆ドームを保存するか、取り壊すか、戦後間もないころの広島では議論が続いた。	丸屋根の部分は、支柱の鉄骨がドームの形となり、原爆ドームの最大の特徴を後の時代にとどめることとなった。	一九四五年、広島市に原子爆弾が投下された。	物産陳列館は、多くの市民に親しまれてきた。	原爆ドームは物産陳列館として一九一五年に完成した。	原爆ドームが世界遺産への仲間入りを果たしたとき、わたしはドームがたどってきた年月を思わずにはいられなかった。	要点
とりで	惨害 警告 記念碑	不安	手厚く	ユネスコ 世界遺産	保存 補強	きっかけ 永久保存	保存 議論 むごたらしい	爆心地	投下	親しむ	ひときわ	原子爆弾 原爆ドーム いましめる	言語事項 (難語句)
え	〔終わり〕 筆者の訴		2 世界遺産への道のり	〔説明〕				1 原爆ドームがたどった歴史				〔初め〕 筆者の思	構成

二 日常の学校生活における言語活動

- ① 物語や詩を読み、感想を交流し合うこと。
- ② 「はじめ、中、終わり、自分の考え」という文章構成を使って文章を書くこと。
- ③ 筆者の考えに対する自分の意見を持ち、話すこと。